

座談会（放課後の子どもの居場所・過ごししかた）イベント実施結果

1 目的

葉山町子ども・子育て会議で課題になっている、放課後の子どもの過ごししかたについて、近隣の事例を紹介しながら、放課後の子どもが安全・安心に楽しく過ごすために、「自分に出来ること」、「地域のみなさんで出来ること」などを住民の方に参加していただき一緒に考えていただくことを目的とする。

2 日時

平成 27 年 12 月 6 日（日） 10 時～12 時

葉山町教育委員会 研修室（会議室）

3 対象者

○町内に在住で小学校学齢以上・未就学児のお子さんの保護者

○町内で子どもに関わっていたり、関心のある方

4 定員

50 人（原則事前申込、当日参加も可）

5 内容

①葉山町の放課後事業や町内民間学童クラブの現状報告

②近隣市町村の放課後の子どもの居場所・過ごししかたの紹介

③放課後の子どもの居場所・過ごししかたについての意見交換等（座談会方式）

6 役割分担

主催 葉山町子ども・子育て会議、共催 葉山町

役割分担

葉山町子ども・子育て会議 イベント企画、当日運営（スタッフ）

葉山町（子ども育成課） 会場、当日運営（スタッフ）

7 実施結果

全体の参加者はスタッフを含めて 29 名。

（一般参加者 13 名、会議委員 12 名、町職員 4 名）

内容としては、放課後事業の概要や町学童クラブの状況（民間学童クラブを含む）、近隣市町村の放課後事業の紹介を行った。

8 座談会のご意見等

○第1グループ

- ・学童も放課後子ども教室も臨機応変に利用できればいいと思う。
- ・4～6年生の居場所が必要。
- ・集まって遊ぶスペースがない(場所があっても禁止事項が多くて遊べない)
- ・学童、完全フリーで遊べる場所など子どもの過ごししかたの選択肢を増やす。
- ・遊ばないと子どもはちゃんと育たない。
- ・放課後子ども教室は、月に1回程度、遊び方を提案してくれる人が展開してくれれば安全に楽しく活性化して過ごせると思う。
- ・放課後子ども教室にシルバーやファミサポなどを活用できないか。

○第2グループ

(放課後の過ごししかたの理想)

- ・学年を越えて繋がれる場所。
- ・ゲーム機のない遊びをたくさんしてほしい。
- ・行く大変さ、つまらないを越えて、魅力ある遊び場が良い。
- ・楽しいイベントがある居場所が良い。
- ・放課後の居場所について各学校で運営委員会を立ち上げる。
- ・身近な方たちの繋がりがある居場所。
- ・子どもの世代間が繋がる居場所。
- ・ボール遊びが出来る場所が良い。
- ・PTAや自治会が交代で見守ることが出来れば、子どもを遊ばせることができる。

(放課後の過ごす場所)

- ・学校、児童館等など近いところで遊びたい。
- ・学校と学童クラブの立地条件で自分の意思で選べない。
- ・小学校内に作ってほしい。

○第3グループ

- ・子どもの居場所を考えると、子どもの方から創意工夫が生じるように場を提供できれば良い。
- ・フルタイムでも週2回位のパートでも必要に応じて利用できる施設がほしい。
- ・児童館と学校の選択ができればいい。

- ・学校の施設（体育館、図書室など）自由に利用できると良い。
- ・就労の時間も様々なので気軽に預けられる場所として学童クラブの運営ができればと思う。利用料が下げられればと思う。
- ・直営の学童クラブは18：00までだとフルタイムで勤務できない。
- ・学校や児童館までが遠い子どもがいる。
- ・学童クラブで無料の習い事要素があるとうれしい。
- ・直営の学童クラブでおやつを提供があるとうれしい。
- ・学童クラブで遠足などイベントを行い、町が責任を持って欲しい。

○第4グループ

（困っていること）

- ・公園で遊ぶことが少なくなった。
- ・習い事で忙しい子との調整が難しく自分からは出て行かずゲームで遊んでしまう。
- ・学校で放課後そのまま遊べない。
- ・児童館でお昼が食べられない。
- ・ゲーム機ばかりで遊んでしまう。
- ・放課後子ども教室、学童クラブで厚生労働省、文部科学省の壁を小さな葉山町だからこそ、なくして、共存できるようにしてほしい。
- ・6校時のときは、帰宅してからでは児童館へ行けない。
- ・長期休暇中の町の学童クラブは一日中学童クラブから出られないのは息苦しい。
- ・放課後にそのまま校庭で遊べないのが残念。
- ・放課後の子どもの責任所在について、学校、児童館、学童クラブ、保護者、町の5者が話し合うべき。
- ・家から30分歩く山の上の学童へは自主的に行ってくれない。
- ・上級生になって学童クラブを退会したら近所に公園がなく、遊びに行くかが心配。

（放課後の居場所の理想）

- ・「あいさつ」を標語として習慣づける。（子どもと高齢者を繋ぐ）
- ・学童クラブがあるから友達と遊べている。
- ・各年代が集めれる児童館とふれあいスクールを合体して欲しい。
- ・もっと子どもたちに葉山の自然に触れさせたい。
- ・単発の学童クラブがあればいい。
- ・「少し学校で遊んで16：30になったら帰っておいで」と言えるようにな

ってほしい。

- ・町の児童館、学童クラブの先生はとても意識が高く、温かく子どもたちに接して頂き感謝している。縦のつながりが学べる児童館、親でもない大人が怒ってくれることが大事。

- ・0歳～18歳まで子どもの育ちを見守る。いろいろな世代が集まれる場でありたい。

(自分たちができること、地域ができること、町ができること)

- ・放課後そのまま遊べるしくみで町が責任を取る。

- ・校庭、体育館をもっと、子どもたちに開放して欲しい。

- ・学校は地域の避難場所でもあるので、子どもたちの見守り安全サポーターとして、学校に足を運ぶ機会として生かしてはどうか。

- ・学校と子ども会が協力して週1回、ドッジボールやバスケットボールを行う。

- ・地域で子どもを見守る人、家をつくる。